

## (新)環境研究・環境技術開発の推進戦略の検討の方向性について

「環境研究・環境技術開発の推進戦略について」(平成 18 年 3 月中央環境審議会答申)は、その対象期間を当初 5 年間程度としていたが、環境に係る社会的状況の大きな変化に対応するとともに、科学技術基本計画の見直しに関する議論に資するため、今年度中に新戦略を前倒して検討・策定することとなった(昨年 7 月の中環審環境研究・技術開発推進戦略専門委員会において了承)。(新)戦略検討の基本的な方向性(案)は以下の通り。

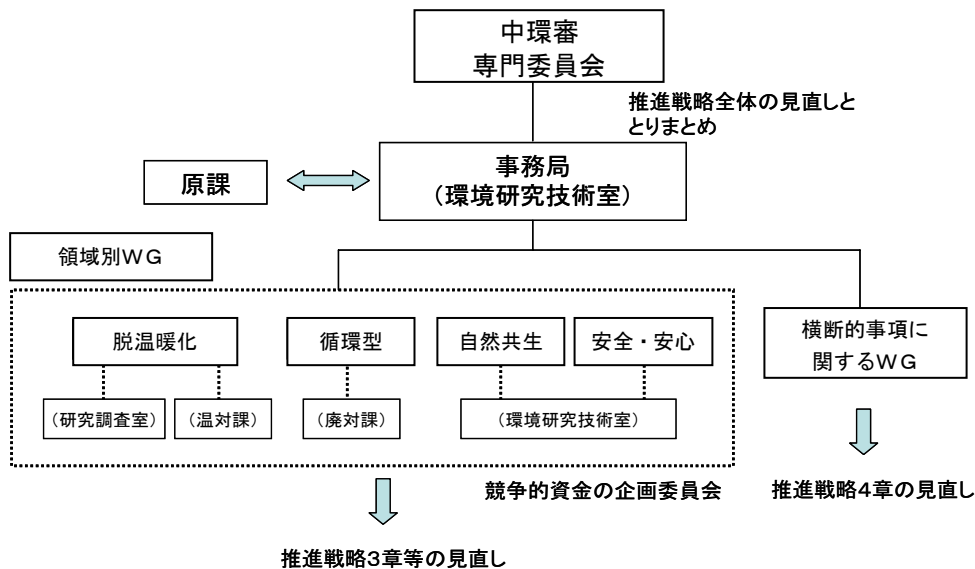
### 1. 基本的な考え方

(現)戦略の総括フォローアップを踏まえ、以下の通りとする。

- (現)戦略と同じく、環境の保全に関する基本政策を担う環境省が中心となり、関係府省や関係機関と連携して推進することを前提とするが、環境省として注力すべき課題や関係主体との連携のあり方については、俯瞰的なものを示した上で位置付けの明確化を図る(特に脱温暖化領域)。
- 「重点投資課題」を中心に、(現)戦略より重点化を図る。
- 各課題の相互の関係、総合的・統一的アプローチが必要な課題と期待される効果の明示を図る。
- 戦略と政策ニーズの整合性及び、戦略を着実に推進する体制の一層の確保を図るため、(新)戦略を、今後 5 年間程度の環境省の各競争的資金において重点的に採択していくべき事項を示す方針として位置付ける。

### 2. 検討体制

- 本専門委員会において議論する。なお、具体的な重要課題等の検討のため、本委員会を補佐する WG を設置する。
- WG は、(現)戦略の 4 領域(脱温暖化、循環型、自然共生、安全・安心)に対応した各 WG と、横断的事項に関する WG の計 5WG とする。(下図参照)
- 戦略と政策ニーズとの整合性を一層確保し、戦略推進のエンジンとして環境省の競争的資金を活用する観点から、各領域の WG は該当する競争的資金の企画委員会からの参画と環境省内の担当部局も加えたものとする。
- 戦略策定後のフォローアップも同体制で行うことにより、毎年度のフォローアップ結果を、当該年度に行う各競争的資金の公募・採択に着実に反映させる等、強力な推進体制とする。



### 3. 検討スケジュール

#### 本日 中環審専門委員会（第7回）

- (現)戦略の実施方針の総括フォローアップ
- (新)推進戦略の検討の方向性（第8回以降に向けた予備ディスカッション）について議論。

#### 9月 中環審専門委員会（第8回）

- 『戦略策定の前提等（(現)第2章）』
  - 『環境研究・技術開発の推進戦略（基本的な推進戦略／重点的に推進すべき領域・課題／成果目標の設定）（(現)第3章）』
  - 『戦略推進のために強化すべき方策（(現)第4章）』
- の枠組み及び内容の方向性について議論。領域別WGが具体的な重要課題を検討していくための基礎とする。

#### 10月～1月 領域別WG

具体的な重要課題を検討。

#### 2月 中環審専門委員会（第9回）

各WGの作業結果を報告・レビュー。(新)推進戦略（専門委員会報告書）として取りまとめ。

#### 3月 中環審総政部会

(新)推進戦略（答申）として取りまとめ。